

# 平成19年度活動報告



特定非営利活動法人  
日本・イラク医学協会

# イラク国 医学・医療交流計画 (エルビル市訪問)

イラク国内の情勢は依然混沌としており、先行きは不透明なものの、一部北部地域(クルド地域)については外務省の危険情報の度合いが低くなったことから、昨年度の活動計画の1つとして、「イラク国 医学・医療交流事業(エルビル市訪問)」の実施を計画しておりました。

これは、イラク国保健省大臣をはじめとする幹部との協議を通じ、日本とイラクとの医学・医療交流の促進、ならびにクルド地域の医療施設訪問を目的とし、昨年5月27日から6月3日の予定で7名の学術交流参加者を派遣する計画でした。

ところが、具体的な派遣手続きを進めている最中、訪問予定地であるクルド地域でテロ事件が発生し、関係諸官庁との協議の結果、現地状況を今一度注視する必要があるということで、残念ながら本事業の一時中断・延期を決定致しました。

現在、同地域の安全面はかなり好転していることから、本年度の主要事業として再度実施に向けての準備を進めております。

## <昨年度派遣予定者(7名)>

- ・都築 正和 日本・イラク医学協会会長 東京大学医学部名誉教授
- ・石田 賢司 日本・イラク医学協会専務理事 アイテック(株)海外事業本部取締役
- ・馬杉 則彦 日本・イラク医学協会理事 湯河原厚生年金病院 病院長
- ・松本 謙一 日本・イラク医学協会理事 サクラ精機(株) 代表取締役会長
- ・山本 保博 日本・イラク医学協会理事 日本医科大学 高度救命救急センター長
- ・近藤 久禎 日本医科大学 高度救命救急センター 医局長
- ・石川 洋次 日本・イラク医学協会会員 アイテック(株)海外事業本部統括部長

なお、本事業の事前調査についてはアイテック(株)へ業務委託しており、2008年5月14日から16日の3日間、アイテック(株)海外事業本部統括部長の石川洋次氏にエルビル市を訪問していただきました。

# ファルージャ総合病院に対する 医療支援事業(2007年8月)

昨年8月、「橋本メモリアル・ムハンマド君基金」により、東邦大学医療センター大森病院での研修のために来日していたイラク人医師2名(ラニア・イブラヒム医師、サミラ・アブダルガニ医師)に対し、在日イラク共和国大使館から医療支援が要請されました。

両医師はファルージャ総合病院ならびにバグダッドのメディカルシティに、それぞれ小児科医、産婦人科医として勤務しており、いまだ混迷の続くイラク国内における、医療機材や医薬品の不足といった医療現場の現状につき、お話を伺いました。

これを受け、当協会では日本光電工業(株) 代表取締役社長 荻野様(当協会理事)と中村医科工業(株) 代表取締役社長 中村様にご協力頂き、ファルージャ総合病院に対し、以下4点の医療機材を贈呈致しました。

1. 心電計(日本光電工業)
2. パルスオキシメーター(日本光電工業)
3. 喉頭鏡(中村医科工業)
4. レサシテーター(中村医科工業)

その後、両医師は無事イラクへ戻り、当協会からの贈呈機材はファルージャ総合病院で有効に活用されているとの連絡を受けております。



ムクリス・ラジャフ イラク大使館書記官、ラニア・イブラヒム医師、サミラ・アブダルガニ医師、  
都築会長、荻野理事

# ファルージャ総合病院 医療機材贈呈式(2007年8月23日) イラク大使館にて

